研究内容説明書

作成日：2024年　6月　24日

研究協力のお願い

昭和大学附属烏山病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

依存症患者に対する精神刺激薬の処方実態調査
１．研究の対象および研究対象期間 2017年5月1日から2025年6月30日に昭和大学附属烏山病院を受診し、依存症と診断された患者さん
２．研究目的・方法 依存症患者さん（物質乱用の既往を含む）に対して、精神刺激薬（メチルフェニデート、ペモリン、モダフィニル、リスデキサンフェタミン）はリスデキサンフェタミンを除き禁忌ではありません。注意を要する特定の群として「薬物依存又はアルコール中毒等の既往歴のある患者」が電子添文に記載されています。実際には、依存症患者さんが物質を再使用する「スリップ」の頻度が上昇するという報告とプラセボと変わらないとする報告が混在しています。また物質ではなく行動嗜癖（例えば病的賭博）の患者さんに対しても処方が躊躇されるケースを散見しますが、非医療目的のメチルフェニデートが性衝動など危険行為を誘発する可能性は指摘されていますが、処方薬ではその報告は見当たらず、処方医の意識調査を実施した報告も見当たりません。 本研究では、依存症患者さん（ICD10におけるF10-F19 およびF63）に対する精神刺激薬の処方実態を調査します。精神刺激薬を使用していない依存症患者さんとの予後を比較します。 これらを明らかにすることで依存症患者さんに対する精神刺激薬処方の参考資料を提供できると考えています。
３．研究期間 昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから　　2026年　3月　31日まで
４．研究に用いる試料・情報の種類 患者背景（性別、年齢、診断名、入院日、転入日、転棟日、退院日、在棟期間、入院期間、転帰、入院時入院形態、再入院日）、作業療法実施状況（病棟 OT 開始日、センターOT 開始日、OT 参加回数、病棟 OT 参加回数、センターOT 参加回数）

心電図の自動解析結果 入院時処方薬、退院時処方薬、再入院時処方薬
５．外部への試料・情報の提供 該当いたしません
６．研究組織 研究責任者　　　研究機関名 昭和大学附属烏山病院　　氏名　古屋宏章
７．お問い合わせ先 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属：昭和大学附属烏山病院　　　　　　　　氏名：古屋宏章 住所：〒157-8577 東京都世田谷区北烏山６丁目１１-１１　電話番号：　0333005231（PHS１８２）